

高齢者福祉学演習

[演習] 1年 後期 選択 30時間 2単位

《担当者名》巻 康弘 [maki@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

高齢者福祉学特論、フィールドワークなどの学習をもとに、演習形式での講読や討議を通して高齢者福祉に関する諸課題及び自ら設定する課題について深化させ課題研究に発展させる。

【学修目標】

現代社会における高齢者福祉の諸課題が生じている要因などを的確に指摘することができる。
自らの学習課題を明確にすることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	授業のガイダンス	この演習の進め方を説明することができる。	巻
2) 3	地域包括ケア	地域包括ケアに関する文献をもとに、購読、要約、課題の検討を行うことができる。	巻
4) 5	意思決定支援	意思決定支援・選好形成支援に関する文献をもとに、購読、要約、課題の検討を行うことができる。	巻
6) 7	身寄りがない高齢者をめぐる支援	身寄りがない高齢者をめぐる支援に関する文献をもとに、購読、要約、課題の検討を行うことができる。	巻
8) 11	課題についての高齢者福祉に関する研究論文の講読	課題に関する先行研究の検索、講読、整理、要約を行うことができる。	巻
12) 14	課題についての研究の到達点の検討	自ら指定する高齢者福祉に関する課題に対する先行研究での到達点について説明できる。	巻
15	演習のまとめ	本演習を通じて得た諸課題に対する問題意識と具体化の方向性が説明できる。	巻

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

プレゼンテーション(30%) プレゼンテーション資料(30%) 課題レポート(40%)により総合的に評価する

【教科書】

適宜紹介する

【参考書】

適宜紹介する

【学修の準備】

課題に関連する文献を収集すること。その内容について、報告を求める。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(2026年度・大学院 看護福祉学研究科)

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。